

≪第2回≫ ソーシャルインパクト・ボンド(SIB)セミナー2018:英国・オーストラリア・日本のSIBの現状と課題 アウトカムベース公共調達・公共財源調達モデルとしてのSIBの可能性—EBPと国際比較の視点から

■日時: 2018年9月18日(火) 17:00-20:00

■会場: 明治大学駿河台キャンパス アカデミーコモン9階 309C教室(東京メトロ・JRお茶ノ水駅より徒歩5分)
 東京都千代田区神田駿台 1-1 https://www.meiji.ac.jp/koho/campus_guide/suruga/access.html

■主催等: 明治大学非営利・公共経営研究所(INPMS) <http://www.kisc.meiji.ac.jp/~inpms/>

*本事業は文部科学省「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」(研究代表者 明治大学 塚本一郎教授)の研究助成を受けて、「第4回日本版SIB検討会議」として開催されます。

■協力: 株式会社公共経営・社会戦略研究所(PMSSI) <http://koshaken.pmssi.co.jp/>

■通訳: 同時通訳有り

■登壇者:

- ・チー・ホーン・シン氏(Dr. Chih Hoong Sin), ディレクター、トラバース(Traverse)(前身組織名はOPM)
- ・ルース・ローレンス氏(Dr. Ruth Lawrence), KPMG グローバルインパクト投資研究所長
- ・塚本一郎氏, 明治大学経営学部教授、明治大学非営利・公共経営研究所代表
- ・森利博氏, 立命館大学大学院経営管理研究科客員教授(前職、同大学院専任教授)

■趣旨:

ソーシャルインパクト・ボンド(social impact bond: SIB)は、インパクト投資の一種であるばかりでなく、民間資本を活用したアウトカムベースの公共調達(outcome-based commissioning)とみなされている。近年、SIBは財政コスト削減や公共サービス分野のイノベーション、社会イノベーション(social innovation)、そして社会的セクターの資金調達モデルなど、様々な観点から世界的に注目を集めつつある。実際、SIBのマーケットは、2010年に世界最初のSIBが英国で組成されて以来拡大を続け、現在、20カ国以上で、少なくとも100以上のSIBが実施されている。

しかしながら、SIBの公共財源調達方式や公共サービス供給モデルが、「インプット→アウトプット志向」の従来の方式と比較して、効率的で有効な結果をもたらしているという明確な証拠が示されてきたとはいえない。実際、SIBの介入と現実の結果との間の因果関係について様々な疑問が提起されてきた。さらに、SIBのロジックモデルは、財政コスト削減とアウトカム改善が同時に達成可能という仮説に基づいている。しかしながら、そうした仮説が十分に立証されてきたとはいえない。

日本では、SIBやインパクト投資のマーケットは依然として小規模にとどまっており、英国や米国、オーストラリアと比べると、市場に参加するプレイヤーもかなり少ないのが現状である。実際、日本のSIBのパイロットやSIB契約では、ごく一部の財団などが投資家や中間支援組織としてSIB契約を主導する役割を担っている。しかしながら、日本では、そうした主導的役割を果たしている財団なども、社会的セクター組織(NPOや社会的企業)との間でパートナーシップを構築する視点やEBP(Evidence based Policy: 科学的根拠に基づく政策)の視点は極めて弱い。一方、中央政府は予算は小規模とはいえ、SIBの組成を財政的に支援する事業も開始している。また、本年、英国のビッグソサエティ・キャピタル(BSC)を参考に、休眠預金の受け皿となる社会的投資目的の一般財団(指定活用団体)の公募なども行っている。しかしながら、政府のSIB関連政策は未だ洗練されておらず、EBPのアプローチや戦略的視点を欠いているのが現状である。

以上の理由から、英国とオーストラリアから、SIBやアウトカムベースの公共調達(成果連動型契約:PbR)に精通した専門家を招聘し、SIBセミナーを開催する。本セミナーの目的は、SIBの実際のインパクトや課題により焦点をあてて、また、日本も含めた3カ国の国際比較の視点もいれて、英国やオーストラリアの経験、事実発見や考え方から学ぶことを目的としている。

■問い合わせ先

明治大学非営利・公共経営研究所

Email: inpms@meiji.ac.jp

または 公共経営・社会戦略研究所

Email: info@pmssi.co.jp

*本セミナーは招待制で開催します。お知り合いをご紹介される場合も、上記連絡先にお問合せください。

*公共経営・社会戦略研究所(明大発ベンチャー)は、社会貢献(産学連携)として本セミナーに無償協力します。



17:00-17:10	開会のあいさつ	塚本一郎
17:10-17:40	英国における SIB の現状と課題（仮題）	Dr. Chih Hoong Sin
17:40-17:55	質疑	
17:55-18:25	オーストラリアにおける SIB の現状と課題（仮題）	Dr. Ruth Lawrence
18:25-18:40	質疑	
18:40-19:00	日本における SIB の現状と改題	塚本一郎
19:00-19:10	質疑	
19:10-19:15	休憩	
19:15-20:00	討論	司会：森利博



Dr Chih Hoong Sin（チー・ホーン・シン）

トラバース（**Traverse**, formerly Office for Public Management, OPM）、ディレクター

2012 年以來、様々なかたちで数多くの SIB のデザインや実施を支援。エセックスにおいてリスクを抱える若年者支援の SIB などの第三者評価を担当し、学術論文で多く引用されるなど、高い評価を受けている。また、多くのフィージビリティスタディ（e.g. Northern, Eastern and Western Devon Clinical Commissioning Group）に取り組み、SIB のパフォーマンスマネジメントの改善等の助言にも従事（e.g. Newcastle Ways to Wellness）。また、政府系ファンドに申請する自治体への支援等にも従事している。



Dr. Ruth Lawrence（ルース・ローレンス）

KPMG（オーストラリア）グローバルインパクト投資研究所（Global Impact Investing Institute）所長

KPMG 社内チームとともに、インパクト投資マーケットの世界的拡大に取り組み、KPMG のインパクト投資戦略をリード。対人サービスプログラムのインパクト評価やファンディングが専門。

KPMG チームとともに、政府や非営利組織を支援し、SIB のフィージビリティスタディに従事。実際に成功した SIB 契約にも関与。カリフォルニア大学バークレー校で博士号を取得。KPMG に入職する以前は、10 年以上、中央政府の上級アドバイザーを務め、ニュー・サウス・ウェールズ州（NSW）財務局に勤務し、オーストラリア初の SIB の組成にも従事。



塚本一郎

明治大学経営学部教授、明治大学非営利・公共経営研究所代表

佐賀大学経済学部助教授などを経て現職。専門分野は社会的企業論、公共経営論、社会的投資、インパクト評価。中小企業庁「NPO など新たな事業・雇用の担い手に関する研究会」委員、経済産業省産業組織課「地域サービスを支える事業主体に関する研究会」委員、内閣府「政府と市民セクター等との公契約等のありかた等に関する専門調査会」委員、内閣府「社会的インパクト評価の実践による人材育成・組織運営力強化調査に関する研究会」委員・座長等を歴任。主要著書は『ソーシャルインパクト・ボンドとは何か』ミネルヴァ書房（共著）、New Public Governance, the Third Sector and Co-Production, Routledge（共著）など多数。



森利博

立命館大学経営管理研究科客員教授

1975 年京都大学卒業後、1985 年まで三菱商事株式会社に勤務。カリフォルニア大学バークレー校経営大学院に留学し 1981 年 MBA を取得。1985 年ゴールドマン・サックス証券に転職、1995 年同社退職までプロダクト・マネジャーとして米国モーゲージ証券・資産担保証券等の金融商品を機関投資家向けに販売する。その後、日米欧の証券会社・格付け機関において内外の証券化商品、仕組み債、外国債券を取扱うマネジャー等を務める。金融資産の証券化、社会貢献事業の資金調達を扱うソーシャル・ファイナンスを研究テーマとしている。2006 年 4 月から 2018 年 3 月まで立命館大学経営管理研究科専任教授。